

我が家の除草対策

コナギ



福井県勝山市 南 都志男

我が家も長年雑草と付き合ってきました。EMの使用前はマツバイが主要雑草でした。祖母はコナギが生えたら土が良くなった証でお米の収量も良くなるから喜べと言って一番草から3番草まで手取りで行っていました。

(公財)自然農法国際研究開発センターでは雑草の役割について研究を重ねてきてようやく主な水稲雑草の役割について報告がされるようになりました。研究の中でコナギの果たす役割については水稲を栽培するに最も適した土の状態と報告されています。更にコナギがおとなしくなり水稲が元気で生育する方向性も提案しています。この研究を基に(株)EM研究所ではコナギの発芽とEMの関係を試験してきました。その結果、EMはコナギの発芽を促進させる働きがあることが分かりました。

3年前より自然農法センターの研究報告とEMの働きを我が家のほ場で再現する取り組みを始めました。

その結果平成27年度は8枚あるほ場に除草機を入れたのは2枚だけになり平成28年の今年も130aのほ場に除草機を使用することなく、一度も除草に入ることの無いほ場や部分的に出たほ場のコナギをQホーという道具で処理を行いました。除草に費やした時間は全ほ場平均で10a当たり1時間半程度で終わることが出来ました。この3年間の取り組みでコナギの出そうな場所は代かきの時点で大体見当が付くようになりした。3年間の結果から今まではコナギの生育を促すような取り組みをしていたことが分ってきました



Qホー

今日まで除草に苦勞をされていない農家の方々の取り組みが自然の理に叶っていることに取り組んでおられたことを改めて知ることが出来ました。

どうしても稲刈りが終わると一年が終わったような気になりますが、EMの開発者の比嘉教授も稲刈り後が大事だと何回も教えて頂きましたが、3年間取り組んで見て本当に実感を持つことが出来ました。

年間を通して、除草対策の為に、又品質の向上の為にどのような作業にどれくらい時間をかけることができるのかが全てを決めて行くように思われます。

農家一軒、一軒様々な環境の違いがある中で、除草にかかる時間の削減は秋処理から始まることは間違いありません。今年の秋から来年の田植え後にコナギやヒエがおとなしくなるようEMを活用した取り組みを始めてみませんか！



左の写真は今年一度も除草に入らなかったほ場の土壌の断面です。稲藁等の有機物が地表から10cm以下に集積し堆積しているのが見えます。このような状態を耕種的に作成することによりコナギの抑制が図られたとも思っています。

除草時間の削減により自然農法実施ほ場や有機栽培ほ場への関わり方が変わってきます。

除草時間の削減により誰でもが自然農法や有機栽培に取り組める可能性が出てきました。